

## 第68回埼玉県美術展覧会審査評

### 【第5部 書】

審査主任 関根 松篁  
せきね しょうこう

第68回展の一般・会員の出品点数は451点で、前回展より7点減少しました。近年、出品点数は減少傾向にあります。

入選数は273点であり、率にして60.5%の入選率となりました。出品者は、ほぼ県下全域よりあり、作品の内容は漢字、仮名、近代詩文、篆刻等で力強く充実していました。そして書風もバラエティーに富んだ作品が多く見られました。出品者年齢層も、15歳から90歳と幅広い層に及び、中でも女性の出品が多くありました。

鑑審査、審査は一層の厳正、公平を期するため三次に亘って行いました。厳選の中最後まで残った10作品を特選に決定しました。そして、それぞれの作品を吟味し各賞を配分しました。

入賞作品の選定にあたり非常に残念なのが誤字、脱字です。心して作品制作にあたっていたいただきたいと思います。

今後は書技術の鍛錬と共に、より高度な美の表現を追及し、古典を踏まえ個性豊かな躍動感のある優雅な作品制作に心がけてください。

#### ・埼玉県知事賞

「かんこうし韓翃詩」 つちや土屋 せんしゅう千秋

力動感溢れる大胆な作品です。書き出しはちょっと細目に、軽味を帯びています。書き進む毎に全体にとっても変化に富み、特に文字の大小、字形の自然な傾きが、ゆったりと、リラックスした雰囲気醸し出しています。

線のタッチを見ると、とても鋭く、紙面に切って入るかのような強さと勢いがあり、これが、息の長い質の醸成へとつながっていると考えられます。格調の高い作品に敬意を表します。

・埼玉県議会議長賞

こけいし  
「顧夙詩」 ますお 増尾 りゅうせん 龍泉

隷書体を用いて現代の息吹きを感じさせるモダンな作品に仕上げました。字間を広くとり字形を大胆に平らにしていますが、細みの書線に躍動感があり窮屈がありません。文字の書いていない白の部分も書作品の大事な点ですが、その白が冴えて見えるのは、書線が生き生きしているからであります。

・埼玉県教育委員会教育長賞

かんちやざん し  
「菅茶山詩」 さいとう 齋藤 せいすい 青穂

大胆で伸びやかな七言絶句28字の行草作品。書出しの「雪」から躍動感が紙面に表現され、穂先の利いた細い鋭い線と縦長に構えた字形でぐいぐいと書き進む運筆が魅力的です。渴筆が散見されますが、粘り強い運筆で潤渴を明確にし、終画の斜めの点や線がリズム感を醸し出しています。技術的に高度な作品です。

・埼玉県美術家協会賞

り はく し  
「李白詩」 おおなか 大仲 きんすい 錦翠

4行・80文字を、墨量がたっぷりとして潤渴も美しく、特に、かすれている文字が、適当にアクセントになって良いと思います。

真面目で丁寧に書き込んだ作は、誠実さが滲み出ていて好感度抜群な佳作。遅連緩急を工夫されると作風も一段ハイレベルとなると思います。

・埼玉県美術家協会賞

「張祐詩」<sup>ちょうこし</sup> 大室<sup>おおむろ</sup> 紅玉<sup>こうぎよく</sup>

内在する精神の躍動に経験豊富な実力と、長鋒<sup>ちょうほう</sup>をうまく利用し、頑健<sup>がんけん</sup>で、粘りのある重厚な線質は規模も大で、気力充実の作品と見受けられます。それに加え連線体の構成もよく考えられている様子。これを励みにますますのご活躍を希望します。

・埼玉県美術家協会賞

「寒山詩」<sup>かんざんし</sup> 平岡<sup>ひらおか</sup> 東澤<sup>とうたく</sup>

県議会議長賞増田氏の隸書が現代を写すとしたら、平岡氏のこの隸書は、時がゆっくりと流れていた古の時代を彷彿とさせる伸びやかな作品といえます。懐の広い構えと気負いのない書線で安定感のある作となりました。隸書の基本をしっかりと学んだのちに表出した率意<sup>そつゐ</sup>の書と思います。

・さいたま市長賞

「早秋山居」<sup>そうしゅうさんい</sup> 柿谷<sup>かきたに</sup> 響可<sup>きょうか</sup>

筆よく食い込み、強い筆法で書き連ね、しかもスッキリとした自然体で、五言律詩を気負いのない魅力ある作品に仕上げた心地良いものとなりました。今後もこの書風を生かし、後進の指導に精を出して頂くことを望みます。

・さいたま市議会議長賞

「ふかくさの」 おおた しゅすい  
太田 珠穂

今回は細字かなが特選に選出されました。金槐和歌集を流麗に、細い線と強い線を上手く調和させています。リズム感の良い構成で古典をふまえた、てらいのない作品で鑑賞者にも、落ち着いたかなの美しさを感じさせてくれる作品になりました。

・テレビ埼玉賞

「唐詩二首」 とうしにしゅ おおさわ びきょう  
大澤 美峽

五言律詩二種、八十字を終始一貫、気力充実して書き上げました。濃墨で潤渇のバランスのよい単体作。自然な文字の大小のリズムが絶妙です。

行の振幅が程よく縦の流れとなり、筆圧の変化を十分に意識しながら、巧みに書き進めた作者の書技の鍛度の高さと気迫を感じました。気骨を蔵し、風格が見える堂々たる出来栄えです。

・東京新聞賞

「鳳凰于飛」 ほうおううひ あんどう ほうげつ  
安藤 芳月

篆刻に三法あり。具体的には字法、刀法、章法のことですが、この四文字白文の作品はどれも感心させられます。正確な字形、力強い刀法が全体に落ち着きを与え、見る者をして魅力を感じさせています。そして、何よりも対角線に布字された疎密は絶妙なバランス。輪郭も作為的な雅味がなく自然な方寸の世界が表現されています。

・埼玉県美術家協会会長賞

「りしょういん し李商隠詩」 かとう れいこう加藤 玲香

敢えて書線に抑揚をつけず、直線で文字を構築したことで、都会の香りのする明るい隷書作になりました。墨量の変化もあり、一文字の中に細い線が混じることにより文字の中の白が輝き、全体の変化にも良い効果を与えています。各々の文字が響き合い、現代に相応しい魅力ある作と思います。

・高田誠記念賞

「そうせき し漱石詩」 おくとみ かそん奥富 霞村

淡墨で、規模雄大、懐の広さを感じさせる作品です。ゆったりとした構えでありながらメリハリの利いた点画は、観る者を爽快な世界に引き込んでくれます。よく観察してみると、上部に比較的大字形が並び、それが、観る者の眼を引きつける一方、下部には、変化のある字形で、豊かな動きのある表現を試みると同時に、行の流れの作成が巧みで、とても安心感のある良い作品です。